

「国宝 鳥獣戯画」の展示期間

「甲・丁巻」の展示期間は前期[2022年9月 3日(土)～ 9月25日(日)]

「乙・丙巻」の展示期間は後期[2022年9月27日(火)～10月16日(日)]

甲巻(前半) [9月3日(土)～9月11日(日)]



扇子を片手に手招きをする兎。

兎と蛙がチームに分かれて弓の競技を楽しんでいる。

蓮の葉でできた弓的。側では狐が尻尾に火を灯している。

露が晴れると樹々や秋草が見えてきた。

陸へあがると急に露がたれこめる。

岩の上で身体を洗ってもらう猿。その手前では兎が手招きしている。

崖の上から鼻をつまんだ兎がダイビング!



猿の僧侶に兎と蛙が贈り物をしている。

紙漉ぎを境に場面が急に変わる。ここから先は元々は別の巻物に分かれていた。

満面の笑みで手招きする兎。

宴会の準備のために唐櫃や酒壺を運ぶ兎と蛙。何人(?)かの兎は中身が気になって仕方ない様子。

扇子を片手に手招きをする兎。

兎と蛙がチームに分かれて弓の競技を楽しんでいる。

甲巻(後半) [9月13日(火)～9月25日(日)]



兎を投げ飛ばした蛙がポーズを決めて勝利の雄たけび。

兎と蛙の相撲。耳を噛むのは反則なのでは?

編木を手にした蛙が舞を披露。

仰向けにひっくり返る蛙。先ほどの猿の仕業?

薄を振り上げた兎が逃げる猿を追いかけている。



法会が終わり御礼の品が贈られる。猿の僧侶の表情が何ともいえない。

蛙の仏像をお祀りして、猿の僧侶がお経をあげている。

法会の場面。猿や蛙、狐など多くの動物が参列している。中には涙を流すものもいる。

双六盤を運ぶ猿。この後、様々なゲームを楽しむ場面が続いていたが現在は失われている。

兎を投げ飛ばした蛙がポーズを決めて勝利の雄たけび。

「国宝 鳥獣戯画」の展示期間

「甲・丁巻」の展示期間は前期[2022年9月 3日(土)～ 9月25日(日)]

「乙・丙巻」の展示期間は後期[2022年9月27日(火)～10月16日(日)]

乙巻(前半) [9月27日(火)～10月2日(日)]



角を突き合わせてぶつかり合う二頭の牛。
口から息を吐きだしており熱気が伝わる。

続いては牛の群れ。
馬と同様に様々な姿が描かれる。

おそらく親子の馬だろう。
草を食む親馬の後ろで
子馬が振り返っている。

冒頭は馬の群れ。
毛づくろいをしたり、
駆けまわったりと様々な姿が描かれる。



片足立ちする鶏。
その表情はどこか
やるせなさそうにも見える。

怒りの表情で吠えあう犬と、
その下で軽やかに駆ける犬のギャップが
何ともいえない。

枯木に三羽の鷹がとまっている。

角を突き合わせてぶつかり合う
口から息を吐きだしており熱気

乙巻(後半) [10月4日(火)～10月16日(日)]



猫に見えるが、これは虎。
子どもの虎は犬にも似ている。

岩場を抜けると
山羊の群れが現れる。

水辺で喉をうるおす豹。

想像上の生き物である
麒麟が雲中を飛行している。

甲冑を背負った一角獣。
犀、もしくは玄武などの
想像上の生き物と考えられる。

続いては水辺の風景。
手前の雉が見事に捕獲!

つがいの鶏とひよこたち。



悪夢を食べてくれるとされる
想像上の生き物である狸。

奥側の象は、
耳をたてて口を大きく開けており、
怒っているのだろうか。

雲と共に龍が飛んできた。
身体をくねらせて
大きく口を開けている。

勇ましく吠える獅子と、
後脚で頭をかかく獅子。

猫に見えるが、これは虎。
子どもの虎は犬にも似ている。

「国宝 鳥獣戯画」の展示期間

「甲・丁巻」の展示期間は前期[2022年9月 3日(土)～ 9月25日(日)]

「乙・丙巻」の展示期間は後期[2022年9月27日(火)～10月16日(日)]

丙巻(前半)[9月27日(火)～10月2日(日)]



にらめっこ対決。
観客の一人は
のけぞって爆笑している。

続いては首引き対決。
指さして笑う人物もあり、
「見て見て」などと言いつつ声が聞こえてきそう。

頭脳ゲームの次は身体を使った競技。
耳につけた紐を引っ張り合う
耳引き対決を行っている。

稚児と男の将棋対決。
稚児の後ろから老人が
アドバイスしている。

続いては双六遊び。
勝負に負けてしまった老人が
身ぐるみはがされている。

剃髪姿の人物たちが
囲碁に興じている。



犬を戦わせる闘犬。
棒を持った子どもたちが
犬をけしかけている。

人間の次は動物による競技。
鶏を戦わせる闘鶏の様子を
人びとが輪になって見入っている。

痩せた男と太った男の
腰引き対決。

にらめっこ対決。
観客の一人は
のけぞって爆笑している。

丙巻(後半)[10月4日(火)～10月16日(日)]



行列を見物する動物たち。
あまりのお祭り騒ぎに
ちょっと引いているように見える。

祭りの行列。
動物たちははじけっぷりが
笑いを誘う。

杖を持って逃げ惑うのは、
盲目の猿。迫ってくる鹿の足音に
びっくりしたのだろう。

ここからは動物たちが主役。
鹿に乗った猿たちが
レースをしている。



いきなり蛇が出現。
蛙たちは驚きのあまり、
二足歩行をやめて四足歩行で逃げ出している。

蛙チームの応援団。
大きな扇を掲げて
戦況を見つめている。

場面が突然変わって、
猿と蛙による神通力対決が始まる。

木の下で猿と蛙が
蹴鞠を楽しんでいる。

行列を見物する動物たち。
あまりのお祭り騒ぎに
ちょっと引いているように見える。

「国宝 鳥獣戯画」の展示期間

「甲・丁巻」の展示期間は前期[2022年9月 3日(土)～ 9月25日(日)]

「乙・丙巻」の展示期間は後期[2022年9月27日(火)～10月16日(日)]

丁巻(前半)[9月3日(土)～9月11日(日)]



法会の場面。
甲巻に出てくる
猿の法会のオマージュか。

修験者と僧侶による
神通力対決。

被り物から侏儒(小人)が
姿を現す曲芸を披露している。



田楽の場面。
鼓や編木を手にした
人物が舞っている。

疾走する馬の上から
的を矢で射る
流鏑馬の場面。

法会の場面。
甲巻に出てくる
猿の法会のオマージュか。

丁巻(後半)[9月13日(火)～9月25日(日)]



石を投げあう対決である印地打の場面。
勢いよく振りかぶる者、
紐のような投石器を用いる者もいる。

突然場面が変わって法会が行われる。
参加した貴族の一人は木遣りの騒ぎが気になって振り返っている。
この人物だけ細かい線を重ねる似絵風に描かれている。

丸太を引っ張る綱が切れてしまって、
人びとがひっくり返ってしまった。
その様子に皆で大笑い。

大勢の人物で丸太を運ぶ
木遣りの場面。

T字形の道具で球を打ちあう、
毬打という競技。



鼓などの演奏にあわせて
男が舞を披露している。

神秘的な面持ちで牛車から降りる貴族。
その隣では牛車を引いていた牛が
暴走して大さわぎになっている。

石を投げあう対決である印地打の場面。
勢いよく振りかぶる者、
紐のような投石器を用いる者もいる。

突然場面が変わって法会が行われる。
参加した貴族の一人は木遣りの騒ぎが気になって振り返っている。
この人物だけ細かい線を重ねる似絵風に描かれている。

丸太を引
人びとが
その様子